

## 第2学年 国語科学習指導案

児童 1組 男12名 女14名 計26名  
授業者 林 裕子

1 単元名 お話を楽しもう 「お手紙」 (光村図書 2年下)

2 単元について

(1) 教材について

「お手紙」は、友達の不幸せをいっしょに悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いている。友達どうしの心の交流を共感をもって読み取らせたい作品である。

本教材は、会話文が多く、登場人物の心情やその変化が分かりやすい。「ふきのとう」

「スイミー」で学習したことをもとに、行動と会話から、場面の様子や人物の心情を想像し、読みの力をつけるのに適した教材である。

(2) 子どもたちについて

子どもたちは、登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像するという学習は、1年生から重ねてきている。しかし、文の内容を十分に理解できなかったり、文から離れ想像だけが広がってしまったりなど、子ども一人ひとりの読み取りには差異が生じている。

そこで、挿絵を利用したり、叙述に根拠を見つけ出させたりしながら「かえるくん」「がまくん」の気持ちを想像させていく。さらに、読んで考えたことを交流することで、読みを深めさせていきたい。

(3) 指導にあたって

友達の感じたことや考えたことを聴き合い、友達の多様な見方や考え方に気付かせていきたい。そして、さまざまな考えの違いを受容することで、想像の広がりを感じさせたい。

内容をイメージした音読を読み取りにつなげたり、読み取ったことを音読で表現したりできるようにさせたい。

3 単元の目標

◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。

〔読(1)ウ〕

◎「お手紙」を読んで自分の経験と結びつけて、感想を発表し合うことができる。

〔読(1)オ〕

- ・経験したことから書くことを決め、もらった人がうれしくなるような手紙を書くことができる。〔書(1)ア イ〕

4 単元の指導計画(12時間)

第1次 ○「お手紙」を読み、おもしろいと思ったところを発表し合う。(1)

第2次 ○全文を読み、登場人物の会話文を確かめる。(1)

○「1の場面」を読み、手紙をもらえないがまくんの気持ちを会話文から読み取る。(1)

○「2の場面」について、かえるくんの行動を順序よく読み取る。(1)

○「3の場面」について、二人の言動を比べながら読み取る。(1)

○「3の場面」を読み、手紙を待つ二人の気持ちを考える。(1)(本時)

○気持ちが表われるように音読する。(1)

○役割を決めて、音読劇をする。(1)

○新出漢字の学習をする。(1)

第3次 ○「かえるくんとがまくん」のシリーズのほかのお話の読み聞かせを聞く。(1)

○受け取った人がうれしい気持ちになる手紙を書く。(1)

○感想を交流する。(1)

5 本時の指導（6/12）

(1) 目標

がまくんの気持ちの変化を考えることができる。

(2) 指導の構想

がまくんに焦点をあて、会話文をもとに、その心の変化を追っていく。がまくんが、幸せな気持ちにかわっていくところを、ペアや全体で学び合いながら、想像を膨らませていきたい。

(3) 展開

学習内容	指導上の留意点（・支援 ○評価）
<p>1 本時の場面を音読する。</p> <p>2 物語を読んで感じたことを交流する。</p>	<p>・本時の場面（3の場面の後半）の音読させる。</p>
<p>ふしあわせだったがまくんは、どんなふうにしあわせになっていくのでしょうか。</p>	
<p>3 物語の中心部分について話し合う。</p> <p>4 学習のまとめをする。</p>	<p>・がまくんの気持ちの変化を考えさせる。</p> <p>・どの会話から考えたのかを明らかにさせながら話し合わせる。</p> <p>・手紙が届くことが分かって気持ちが高まっていくがまくんの気持ちについて、ペアで学び合う。</p> <p>・ペアで学びあったことをもとに、全体で学び合う。</p> <p>○がまくんの気持ちの変化を考えたことができたか。</p>